

静岡文化芸術大生が栽培・収穫

「久留女木棚田の恵」をPRする引佐耕作隊の学生＝浜松市中区の静岡文化芸術大



久留女木棚田の米販売

静岡文化芸術大(浜松市中区)の学生でつくる団体「引佐耕作隊」が16日から、北区引佐町の久留女木の棚田で栽培、収穫した米「久留女木棚田の恵」を大学生協で販売する。7年目の取り組みで、休耕田で作った米を商品化し、棚田保全につなげる狙い。

保全の重要性訴え

米の品種は、もっちり まる。1〜4年生16人
した食感が特徴の「にこ」が春ごろから週1回程

度、大学から約20キロ離れた棚田に通い、田植えや稲刈り、除草などの管理作業に励んだ。今年は台風で稲が倒れる被害にあったが、地元の農家の協力もあって、96キロを収穫できた。

米の消費者に棚田が必要な理由を伝えるため、生態系保全や洪水調整といった棚田の役割を紹介する5種類のパッケージを用意した。団体代表で同大文化政策学部3年の高橋明日香さんは「棚田から離れた街中の人も米を食べることで、棚田を守る取り組みを応援してほしい」と話した。売り上げは次年度の活動資金に充てる。

販売は27日まで。1袋300グラム入り500円(税込み)。売り切れ次第終了する。

(浜松総局・柿田史雄)